

南嶋民俗資料館の古布の調査研究

A study of old waves of *Nanto Minzoku Shiryou Kan*

又 吉 光 邦

Mitsukuni MATAYOSHI

【要旨】

本論文では、南嶋民俗資料館に蒐集・保管されている古布98件の調査研究を報告する。吉野高善氏によって南嶋民俗資料館に蒐集・保管されている八重山地方の古布裂は、その経糸と緯糸の糸の作り方にいくつかの変化が見られ、一枚の布でも糸の材料となる繊維の種類も異なる場合がある。これらについて、今回は古布全体像と経糸密度、緯糸密度、大きさ、そして質感等の情報をまとめて報告する。

【Abstract】

In total, 98 old piece of cloths kept in *Nanto-minzoku-siryoukan* (Private folk customs material pavilion) are analyzed with the microscope, and consideration is given in this paper. These old piece of cloths in Yaeyama area were collected and kept by Kouzen, YOSHINO in *Nanto-minzoku-siryoukan* after the Pacific War. As a result of the analysis, some alterations are seen in how to make the string of the warp and the weft. Moreover, the modality of the fiber of the material of the string is also different in one cloth.

This paper reports on old piece of cloths' whole photograph, warp density, weft density, measurement, and textures, etc.

【目次】

- | | |
|-----------------|----------|
| はじめに | 3. 古裂一覧 |
| 1. 吉野高善と南嶋民俗資料館 | 3.1 形付 |
| 1.1 吉野高善 | 3.2 芭蕉布 |
| 1.2 南嶋民俗資料館 | 3.3 白地布 |
| 2. 古布裂の統計データ | 3.4 紺地布 |
| 2.1 経糸と緯糸の平均糸密度 | 4. 考察・課題 |
| 2.2 ミミの有無 | |

はじめに

本論文では、八重山地方にあった古布を蒐集し、保管している南嶋民俗資料館（現館長：崎原毅）の古布裂に焦点を当て、糸の素材、糸の作り方、経糸密度、緯糸密度、大きさ、そして質感等を中心に報告する。対象となる古布裂は、文献[1]の54枚に44枚を加えた計98枚である。分析した古布裂は文献[1]と同様に、大きく4つ（紅型、白地、紺地、芭蕉）¹ に大きく分類した後、顕微鏡写真の撮影を行った。また、1cmあたりの経糸、緯糸の本数、および古布裂の上下左右の長さ（サイズ）の記録も行った。さらに古布裂の端（ミミ）有無の記録も行った。幸いなことに、古布裂を蒐集した吉野高善（次節参照）氏は、ミミを入れたままの状態でご布裂の蒐集をされており、これが経糸と緯糸の区別に大いに役立った。特に断りのない場合は、古布裂にミミがあることを示す。

本論文の第1章では、蒐集した吉野高善氏と南嶋民俗資料館について簡単に述べたあと、調査した布の統計的なデータを述べる。第2章では、古布裂全体の写真を掲載し、糸密度などの情報を記載する。最後に総括と今後の研究課題について述べる。

1. 南嶋民俗資料館

1.1 吉野高善

よしの こうぜん
吉野高善（1898年5月15日-1965年11月4日）。沖縄県八重山郡竹富町小浜島出身で、1927（昭和2）年、石垣島で医院を開業した。戦後、八重山自治会の副会長、八重山支庁の衛生部長を歴任し、南部琉球米国軍政府によって八重山民政府の初代知事に任命される。

¹ 白地の古布裂も多数あることが、文献[1]で報告した前回の調査で明らかとなり、その調査分類が主な報告内容となる。

1.1 南嶋民俗資料館

南嶋民俗資料館は、約180年前に建てられた崎原當貴²の赤瓦の住まい（民家）を用いている。現在の館長は、吉野氏の曾孫に当たる崎原毅³氏が務めている。蒐集当時、八重山民政府の知事であった吉野高善氏が八重山の文化財の流出を防ぐために八重山地方の文物を蒐集した。地元の方々から寄贈された八重山地方の考古学資料、民俗資料、民具、陶器コレクションなどもはじめのうちには自宅で展示していた。

今回の調査の対象の古布裂は、吉野氏が蒐集した物であると口伝されている。

2. 古布裂の統計的データ

本章では、調査対象となった古布裂のサイズなどの量的統計データを示し、簡単な考察を述べることにする。文献[1]の54枚に今回あらたに44枚を加えて、総計96種（98枚）件について量的なデータを示す。

文献[1]と同様、材質などの質的統計データは、最大200倍の顕微鏡写真を用いた目視のみである。そのため、科学的再現性に疑義が生じかねないので今後の化学的研究は必須と考えら得る。

2.1 経糸と緯糸の平均糸密度

表1の糸密度とは、経糸と緯糸の1cm当たりの糸の本数を示す。

表1より、経糸の糸密度は芭蕉が最も少なく、次いで形付（紅型）、紺地、白地の順（文献[1]では、白地、紺地の順）となる。ただし、白地と紺地はほぼ同じと見て良い。文献[1]でも述べたが、いわゆる御

² 當貴（とうき）。西暦1846年生まれ。1872年に貢納船で那覇へ向かう途中、暴風雨で長崎に漂着。長崎で呉服店の番頭として3年間滞在し、1874年に帰郷（文献[1][2]参照）。

³ 八重山地方の民具や玩具を作ることができる八重山民具制作の第一人者。居台道5段の腕前。

用布（文献[3-10]）と思われる白地と紺地は、経糸の本数が決まっていたのではないかと推察できる。緯糸では、文献[1]と同様に、芭蕉の緯糸が最も低く、紺地、白地、形付(紅型)の順となる。文献[1]では、紺地(30件：21.4本/cm)、白地(15件：21.8本/cm)であったため、ほぼ同値と見なしたが、今回の調査で紺地(48件：19.8本/cm)、白地(39件：20.8本/cm)と差が現れ、紺地の方が、1cm当たりの本数が1本少ない結果となった。

表1 経糸と緯糸の平均糸密度(本/cm)

形付(4件)			白地(39件)		
本/cm	経糸	緯糸	本/cm	経糸	緯糸
平均	25.5	23	平均	26.5	20.8

芭蕉(5件)			紺地(48件)		
本/cm	経糸	緯糸	本/cm	経糸	緯糸
平均	24.6	14.2	平均	27.0	19.8

紺地と白地の違いは、紺地の古布の糸の材質は木綿が多く、強い撚りが掛けられており、それだけ膨れる。そのため、1本当たりの太さが白地よりも大きくなり、その結果、緯糸の本数が、平均で白地の緯糸の本数より1本少ないと判断できる。ただし、今後、統計的なデータ処理による考察が必要である。

一方、逆に考えると、紺地は地が藍や墨などで染める必要があるため、染めやすくするために糸に撚りを掛けたものとも考えることもできる。その結果、糸が太くなったとも言えよう。

形付と芭蕉布に関しては、文献[1]と変わらないので、文献[1]を参照されたい。

次に、経糸密度の出現頻度を示す。ただし、形付と芭蕉のデータは、文献[1]と同

じである。

表2を見ると、白地は、26本/cmと28本/cmをあわせて74%となる。規格品であることは、ほぼまちがいないと推定できよう。紺地の方は、糸密度に若干ばらつきがあるのが分かるが、それでも24本/cmから26本/cmまでで52%もあるので、企画が決められていた物と推察できる。紺地の経糸密度のばらつきは、木綿糸の使用された物が多いからであろうと思われる(量的データは次節を参照)。また、木綿糸は手袖と考えられ、一枚の布の中でもその太さが一様ではない。そのこともばらつきに関連があると思われる。ただし、30本/cmの古裂は、上品な仕上がりの布が多く、肌触りもかなりソフトで縞模様もはっきりしているので、士族の上等の物であった可能性が高い。

表2 経糸密度の出現頻度(%)

下限値	形付	芭蕉	白地	紺地
8	0.0	0.0	0.0	0.0
10	0.0	0.0	0.0	0.0
12	0.0	0.0	0.0	0.0
14	0.0	0.0	2.6	0.0
16	0.0	20.0	0.0	0.0
18	0.0	0.0	2.6	2.1
20	25.0	20.0	0.0	0.0
22	25.0	0.0	0.0	10.4
24	0.0	20.0	17.9	29.2
26	0.0	20.0	43.6	22.9
28	50.0	0.0	30.8	14.6
30	0.0	0.0	2.6	16.7
32	0.0	20.0	0.0	2.1

下限値：1cm当たりの糸の本数。

例) 下限値が8の場合、8本/cmを示す。

表3は、緯糸密度の出現頻度が示されている。形付と芭蕉布に関しては、文献[1]と変わらないので、文献[1]を参照されたい。

白地は、ほぼ20本/cmあたりに集中していることが分かる。おそらく、八重山白上布という規格品を指すと考えて良いだろう。紺地は、20本/cmを中心に18本/cm以下と22本/cm以上に分布の双頭の山が出来ている。おそらく白地と同様の規格で織られたと思われるが、使用されている糸の太さが一様でないため、表のような結果になったと考えられる。ただ、28本/cmのものもある。これらは、上品な仕上がりの布が多く、肌触りもかなりソフトで縞模様もはっきりしているのので、経糸密度でも述べたが、土族の上等の物であった可能性が高い。

表3 緯糸密度の出現頻度 (%)

下限値	形付	芭蕉	白地	紺地
8	0.0	20.0	0.0	0.0
10	0.0	0.0	0.0	0.0
12	0.0	40.0	0.0	0.0
14	0.0	0.0	5.1	0.0
16	0.0	20.0	2.6	18.8
18	25.0	20.0	15.4	33.3
20	25.0	0.0	38.5	10.4
22	0.0	0.0	25.6	20.8
24	25.0	0.0	5.1	10.4
26	25.0	0.0	2.6	4.2
28	0.0	0.0	2.6	2.1
30	0.0	0.0	0.0	0.0
32	0.0	0.0	0.0	0.0
34	0.0	0.0	2.6	0.0

下限値：1cm当たりの糸の本数。

例) 下限値が8の場合、8本/cmを示す。

表4 撚りの有無

	形付(4件)		白地(39件)	
	経糸	緯糸	経糸	緯糸
数	4	2	36(3)	8(1)

	芭蕉(5件)		紺地(48件)	
	経糸	緯糸	経糸	緯糸
数	3	0	45(1)	37(1)

表4は、糸の撚りの有無を示す。形付と芭蕉は、サンプルが少ないので参考程度で参照されたい。ただ芭蕉布では、緯糸の撚りが無いのが特徴的と言えよう。

白地の古裂では、経糸に撚りが掛けられているものの緯糸のものは明らかに少ない。一方、紺地では経糸・緯糸の両方ともその多くが撚りが掛けられている。先述したが、紺地については着色の必要性から緯糸にも撚りが掛けられているのではないかと推察している。また、文献[1]でも述べたが、紺地の場合、経糸のみ撚りがあれば、染めた際に布全体に縞模様のようなムラができると思われる。仮説が正しければ、糸を作る際から、白地を織るのか、紺地を織るのか決まっていたことになる。

ここで、表4の白地と紺地における括弧内の値は、撚りの掛けられた糸と掛けられていない糸の両方を使用した布があった事を示す。文献[1]でも述べたが、上述の推察が正しければ、白地用の糸を紺地に、紺地用の糸を白地に転用したのではないかと考えることもできる。

2.2 ミミの有無

布のよこの折り返し、すなわちミミは古裂の経糸と緯糸を判別するのに非常に大切なものである。緯糸の場合は、打ち込む際の力加減にも左右されるが、経糸の場合は規格上の問題もあるため、歴史的な経緯を含めて研究する上で欠かせない、その意味でミミの存在は、非常に重要な情報を我々に提供することになる。八重山白上布の地でもあり、蒐集者の吉野高善氏はミミの重要性に気づいていたのであろう。

蒐集された古裂においてミミが無かったのは、白地015番、紺地2007番、2036番、2037番の僅か4件である。その他の94件にはミミがあった。そのため、経糸と緯糸

の区別が直ぐにできた。

[1] 古布裂一覧

本節では、南嶋民俗資料館より提供頂いた古裂の写真画像を各種データとともに示す。長さはcm、糸密度は“/cm”。

ここで、経糸繊維、および緯糸繊維については、最大200倍の顕微鏡写真をもとに識別した結果であり、化学的な識別でないことに留意頂きたい。言い換えれば、化学的識別により、結果が異なることもあり得ることを付記する。

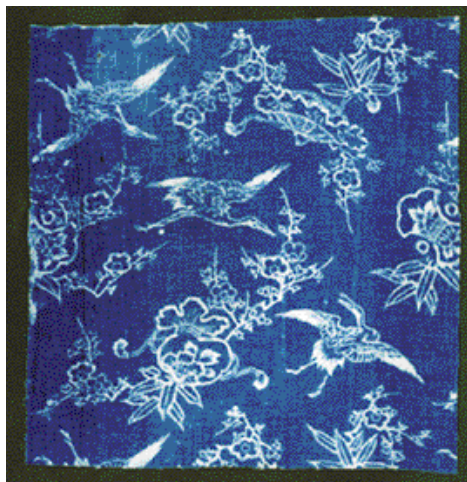
① 形付⁴

南嶋民俗資料館収蔵の形付(紅型)の4つを次に示す。



番号	4001
サイズ	- , 63.7, 16.9, 18.0(上,下,左,右)
経糸繊維	苧麻 (ラミー?)
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	28.3
緯糸密度	24.4
その他	経糸は撚り。経横の褐色糸は真っ直ぐな繊維の糸で苧麻?。褐色の経糸が入った、緋地への形付。著者は、これ以外に松坂屋コレクションでしか、このタイプの形付の現物を見たことがない(文献[15]、p.239)。糸間は粗い。少しゴアゴアした肌触り。

⁴ 本論文の著者は、「びんがた紅型」は、鎌倉芳太郎による新しい単語(造語)と推測している。「形付(かたちき)」が古文書などに見られる伝統的名称であるため、文化を守る観点からも、本論文では「形付(かたちき)」の文字を使う。文献[11-12]は、紅型の呼称を肯定的に捉えている。



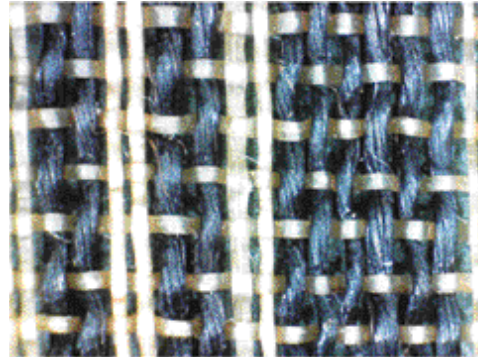
番号	4002
サイズ	23.4, 23.4, 23.6, 24.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	21.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。経糸も緯糸もねじりのある繊維の糸。糸の太さにムラがある。糸間は粗い。ソフトな肌触り。



番号	4003
サイズ	24.0, 24.0, 16.2 16.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	28.3
緯糸密度	26.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。経糸も緯糸もねじれた繊維。ミミは、2本一組の経糸。糸の太さにムラがある。糸間は密。ソフトな肌触りで、ヒンヤリしている。



番号	4004
サイズ	21.5, 22.5, 16.2, 18.5
経糸繊維	苧麻 (桐板?)
緯糸繊維	苧麻 (桐板?)
経糸密度	23.3
緯糸密度	18.0
その他	経糸は軽めの撚り。真っ直ぐな繊維の糸。糸間は粗い。すこしゴアゴアした肌触り。他の苧麻と異なり、しっかりとした均一の太さがあり、また他と比べて白さが著しい。苧麻は経年とともに黄色になるが、それが見受けられない。



(60倍)

番号	3001
サイズ	26.0, 25.7, 17.7, 18.0
経糸繊維	芭蕉、木綿、苧麻?
緯糸繊維	芭蕉
経糸密度	27.8
緯糸密度	18.7
その他	経て横の黄金色糸は芭蕉。青と白の経糸は2本撚りの撚り糸。褐色糸は1本のバインド(接着)撚り糸。青と白の経糸は木綿で柔らかい。褐色の経糸の材質は苧麻と思われるが、不明。青と白の木綿糸の太さは不均一である。ゴアゴアした肌触り。糸間は粗。

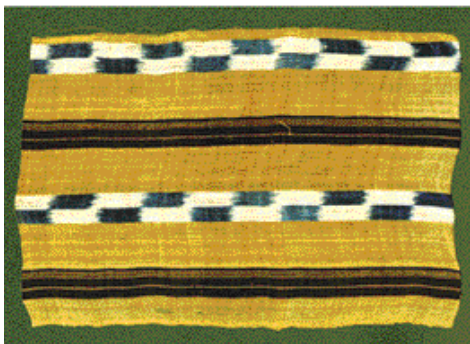
② 芭蕉布

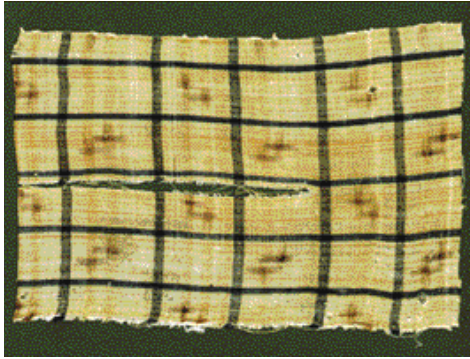
南嶋民俗資料館収蔵の芭蕉布の5つを次に示す。芭蕉布と一括りにしたが、それは芭蕉の繊維が使われており、便宜上の分類である。例えば、番号3001の経糸の種類は、芭蕉と木綿、そして褐色系の経糸おそらく苧麻が使われている。

基本的に、ゴアゴアした肌触りの布である。また、目が粗いため空気を通しやすい。

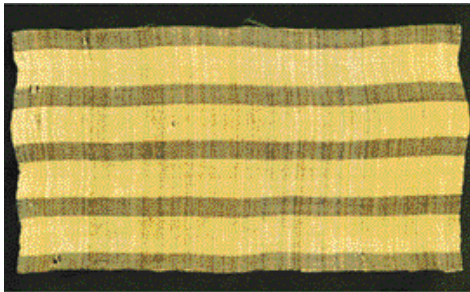


番号	3002
サイズ	26.5, 26.4, 14.7, 14.9
経糸繊維	芭蕉
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	20.0
緯糸密度	13.3
その他	黄金と褐色の経糸は数本の細い芭蕉の撚り糸。緯糸は苧麻の撚り無し。ゴアゴアした肌触り。糸間は粗。



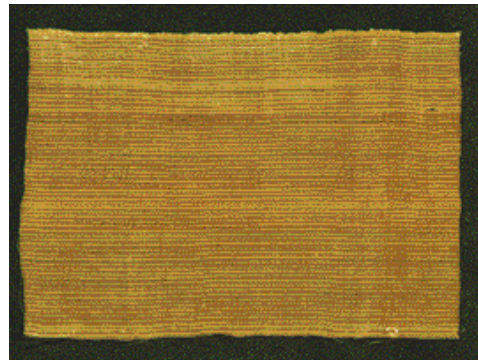


番号	3003
サイズ	23.6, 23.9, 8.2+7.3, 16.4
経糸繊維	芭蕉
緯糸繊維	芭蕉
経糸密度	16.7
緯糸密度	16.4
その他	黄金の経糸は数本の芭蕉の撚り。黄金と褐色の緯糸は芭蕉の撚り無し。ゴアゴアした肌触り。糸間は粗。



(60倍)

番号	3004
サイズ	34.9, 34.5, 18.4, 19.1
経糸繊維	芭蕉
緯糸繊維	芭蕉
経糸密度	33.3
緯糸密度	12.5
その他	黄金の経糸と緯糸は芭蕉。褐色の経糸はやや撚り。褐色の経糸は細芭蕉か。糸間は粗。ゴアゴアした肌触り。経糸方向は糸が撚られているためか、緯糸方向に比べてソフトで畳めやすいが、緯糸方向は硬くて畳めない。



番号	3005
サイズ	22.5, 23.7, 16.2, 16.1
経糸繊維	芭蕉
緯糸繊維	芭蕉
経糸密度	25.6
緯糸密度	8.3
その他	<p>黄金色の経糸も緯糸も芭蕉。黄金色の経糸も緯糸もほつれ大。褐色の経糸と緯糸のほつれ小。黄金色の経糸と褐色の経糸は撚りあり。糸間は粗。ゴアゴアした肌触り。</p> <p>糸のつなぎ目は、非常に小さく、糸一本の太さを僅かに超えるぐらいである。八重山の芭蕉布は、見た目がとてもなめらかなのが特徴である。</p> <p>他の布と異なり、置くと対角線の2角が反り上がる。</p>

③ 白地布

南嶋民俗資料館収蔵の白地の39枚を次に示す。白地布と一括りにしたが、芭蕉布と同様、木綿の糸や苧麻、ラミーと思われる糸が使われている布もあり、便宜上の分類である。

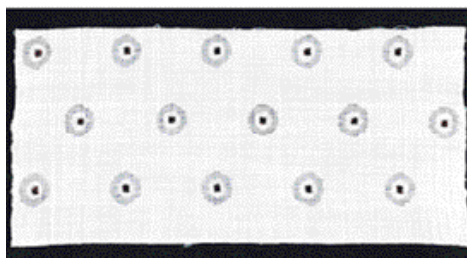
また、化学的な分析を待たなければならぬが、絹糸の使用が疑われる古裂もある。



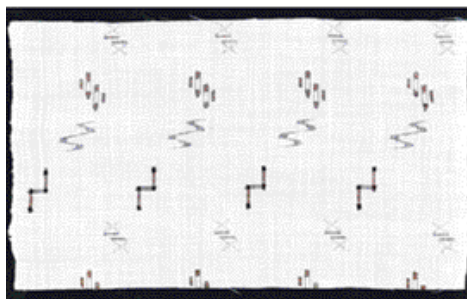
番号	001
サイズ	35.0, 35.3, 21.3, 21.2
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	22.0
その他	経糸は軽い撚り。肌触りはゴアゴアしている。



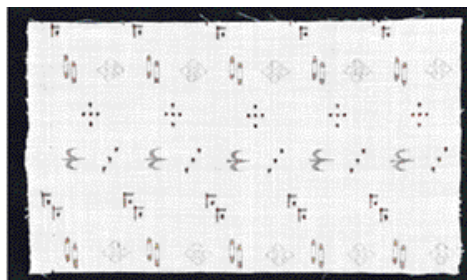
番号	002
サイズ	37.4, 36.7, 21.9, 21.8
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。



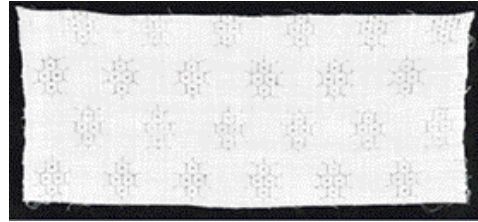
番号	003
サイズ	36.8, 37.7, 17.8, 18.0
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。



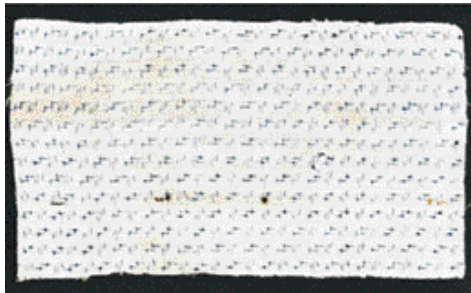
番号	004
サイズ	37.1, 36.4, 21.8, 21.8
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。



番号	005
サイズ	36.2, 35.9, 21.3, 21.6
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。

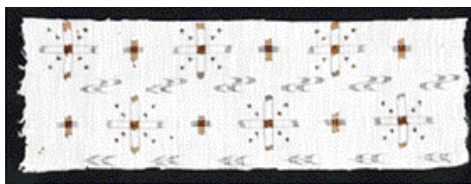


番号	008
サイズ	383, 371, 164, 160
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	23.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。

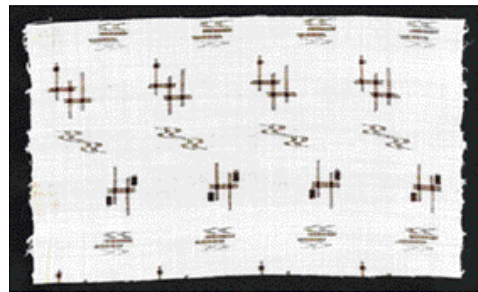


番号	006
サイズ	29.0, 28.9, 16.8, 16.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	18.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。

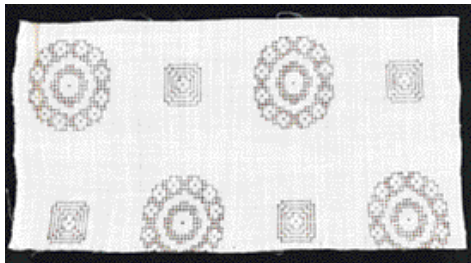
番号	009
サイズ	33.9, 33.6, 19.4, 19.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	26.7
緯糸密度	14.0
その他	経糸は撚り2本の撚り。経緯糸に光沢有り。黒経糸は4mmに11本。肌触りは非常にゴアゴアしている。



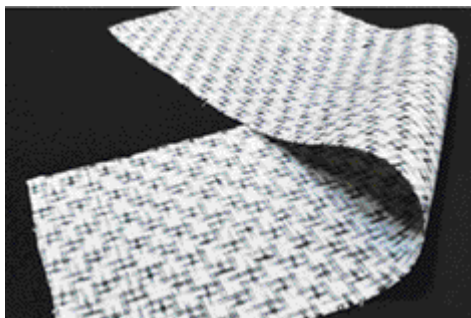
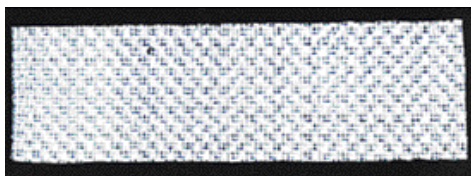
番号	007
サイズ	38.8, 38.9, 13.6, 13.8
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	25.0
緯糸密度	22.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。



番号	010
サイズ	36.1, 35.3, 21.5, 21.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	23.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。

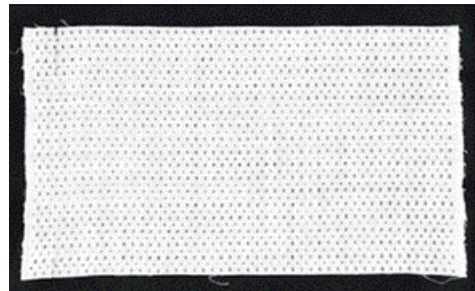


番号	011
サイズ	35.9, 37.4, 18.7, 19.0
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。

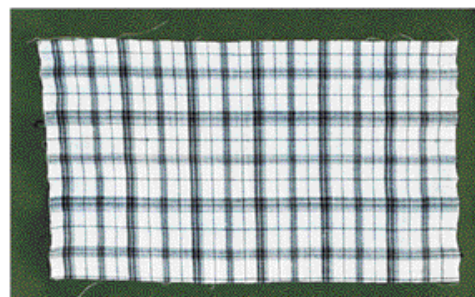


番号	012
サイズ	36.5, 36.9, 10.8, 11.4
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿

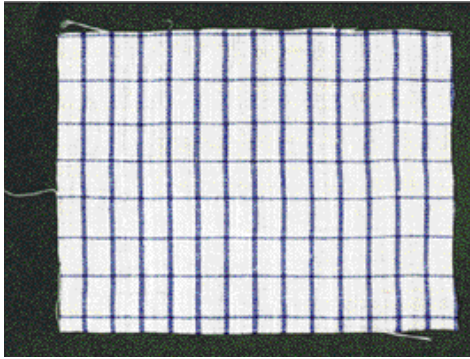
経糸密度	25.0
緯糸密度	29.0
その他	経緯とも強い撚り。ねじりのある繊維の糸。木綿特有の非常にソフトな肌触り。他の白地の生地と異なり、折り畳みやすい。



番号	013
サイズ	37.0, 37.9, 21.6
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	18.0
その他	経糸は軽い撚り。真っ直ぐな繊維の糸。経緯糸に光沢有り。肌触りはゴアゴアしている。



番号	014
サイズ	35.3, 36.4, 20.8, 21.0
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	木綿、苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は撚り2本の撚りで、ねじりのある繊維の糸の木綿。緯糸は真っ直ぐな繊維の糸の苧麻系の糸。褐色の緯糸は、苧麻系の繊維質。肌触りはゴアゴアしている。



番号	015
サイズ	12.1, 12.2, 9.2, 9.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	18.3
緯糸密度	26.0
その他	緯糸と経糸は2本の撚りの糸。経糸は撚り無しのもっと直ぐな繊維の糸系で、苧麻と思われる。肌触りはゴアゴアしている。



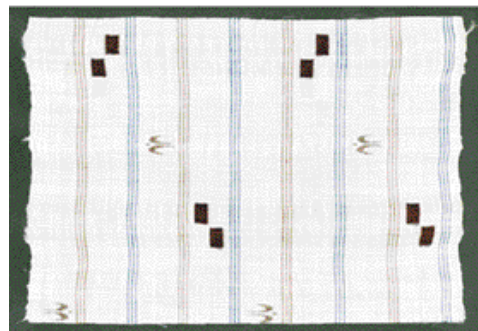
番号	016
サイズ	20.8, 20.2, 8.1, 8.2
経糸繊維	木綿、苧麻(ラミー?)or絹
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)or絹
経糸密度	28.3
緯糸密度	20.0
その他	経糸と緯糸とも軽い撚り。青色経糸は木綿だが、青色の緯糸は、木綿ではない。青色の木綿の経糸以外は、非常に光沢があり、一本一本なめらかで絹のようなものである。肌触りは、ゴアゴアしており絹と異なるが、精練されていない絹糸は、セリシン付着のため、ゴアゴアする。化学的調査が待たれる。



番号	017
サイズ	18.0, 17.6, 7.8, 7.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)、木綿
経糸密度	24.3
緯糸密度	16.0
その他	経糸と緯糸の色糸は2本の撚りの木綿糸。白の緯糸は苧麻。白の緯糸の模様は、テカチによる染めと思われる。ゴアゴアした肌触り。



番号	018
サイズ	15.5, 15.1, 5.9, 5.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	22.0
その他	経糸と緯糸の色糸は軽い撚り。経糸と緯糸は、非常になめらかで透明感がある。ゴアゴアした肌触り。

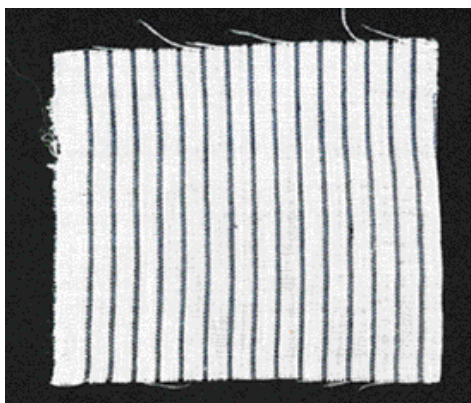


番号	019
サイズ	35.5, 35.8, 24.1, 25.2

経糸繊維	ラミーor絹
緯糸繊維	ラミーor絹
経糸密度	28.6
緯糸密度	34.0
その他	経糸は軽い撚り。非常になめらかで透明感がある。一本一本の繊維がしっかり分かれており、光沢がある。この布の出所は、蒐集された当時から150年前のもので宮良長儀家庭の婦人の着物の端布であることが分かっている（参考文献[1]を参照されたい）。

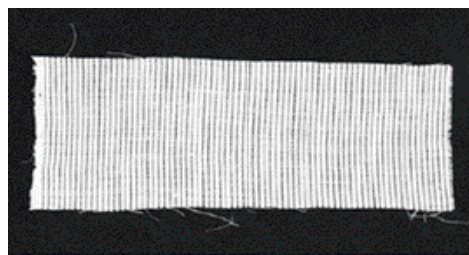


番号	020
サイズ	36.8, 34.8, 19.4, 19.6
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	25.7
緯糸密度	14.0
その他	経糸は2本撚りの撚り糸。緯糸は経糸の倍以上の太さ。白の経糸は木綿、黒の経糸も木綿と思われる。緯糸は、撚りのない苧麻の糸で経年で黄色系に変色している。ゴアゴアした肌触り。



番号	021
サイズ	11.2, 11.2, 9.7, 10.1

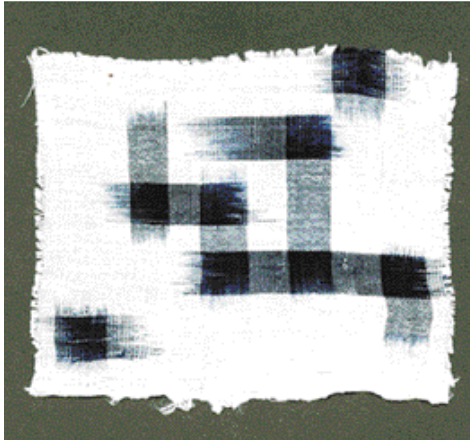
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	15.7
緯糸密度	18.0
その他	経白糸は強い撚り、黒系の経糸は2本撚りの撚りで、木綿と思われるが、断定は出来ない。化学分析が望まれる。ゴアゴアした肌触り。



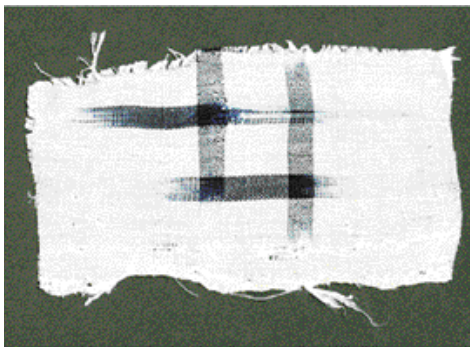
番号	022
サイズ	18.0, 18.2, 6.5, 6.3
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は2本撚りの撚り糸。経糸は、白糸も黒糸も木綿と思われる。緯糸は、苧麻で所々に変色が認められる。ゴアゴアした肌触り。



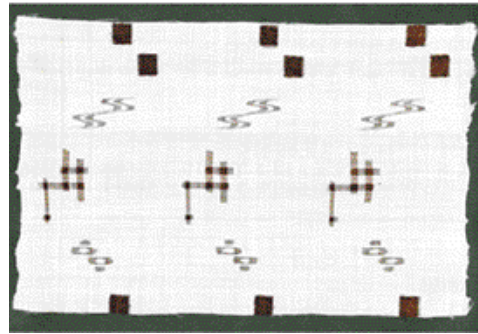
番号	023
サイズ	38.7, 38.1, 22.3, 22.7
経糸繊維	苧麻(ラミー?)or絹
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)or絹
経糸密度	28.3
緯糸密度	24.0
その他	経糸、緯糸とも強い撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。経糸、緯糸とも繊維一本一本が分かれており、光沢のある繊維である。絹のように中央の凹みが認められる。化学的分析が望まれる。



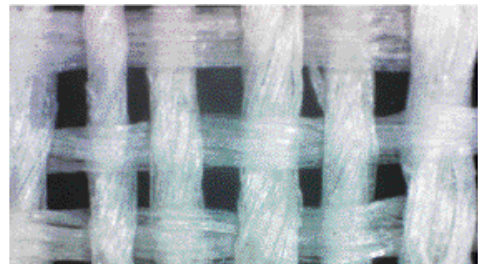
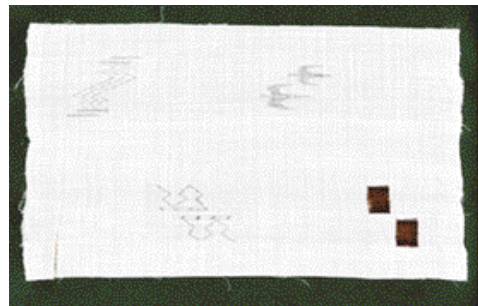
番号	024
サイズ	11.7, 11.5, 9.3, 9.3
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	27.1
緯糸密度	20.0
その他	経糸は撚り。緯糸に撚りはない。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。平面において状態で、対角線上の角が反り上がる。



番号	025
サイズ	10.8, 10.4, 5.4, 5.9
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	25.0
緯糸密度	18.0
その他	経糸は撚り。緯糸は撚り無し。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。

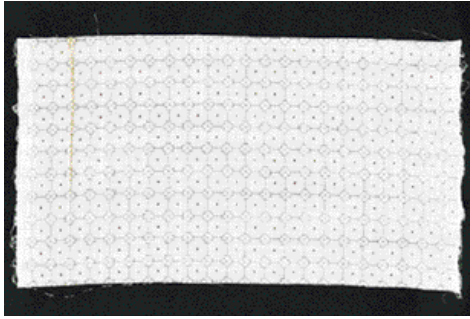


番号	026
サイズ	38.1, 38.0, 24.5, 24.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。緯糸は撚り無し。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。

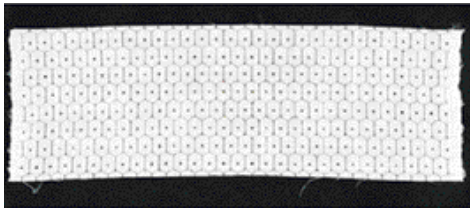


(200倍)

番号	027
サイズ	36.5, 37.4, 21.9, 21.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	30.0
緯糸密度	22.0
その他	経糸は軽い撚り。緯糸は撚り無し。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。



番号	028
サイズ	38.1, 37.9, 21.4, 21.6
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。緯糸は撚り無し。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。

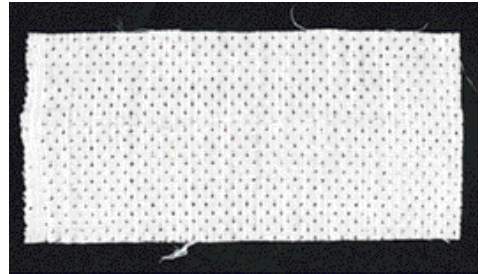


番号	029
サイズ	37.2, 37.4, 12.5, 12.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。緯糸は撚り無し。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。

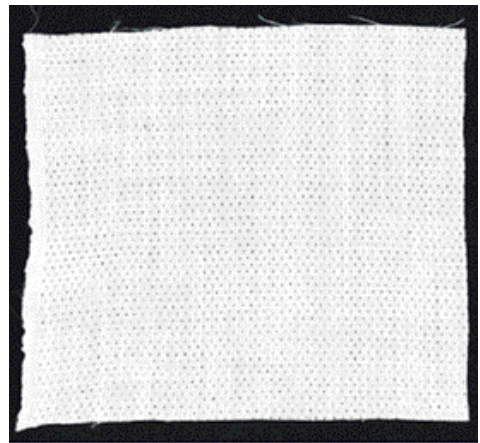


番号	030
サイズ	31.4, 33.3, 12.6, 12.9
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)

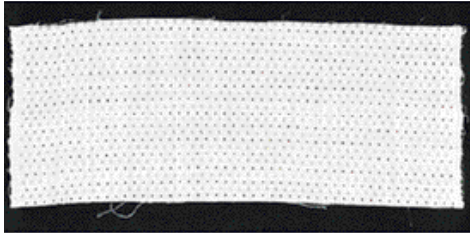
経糸密度	25.0
緯糸密度	18.0
その他	経糸と緯糸は軽い撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。



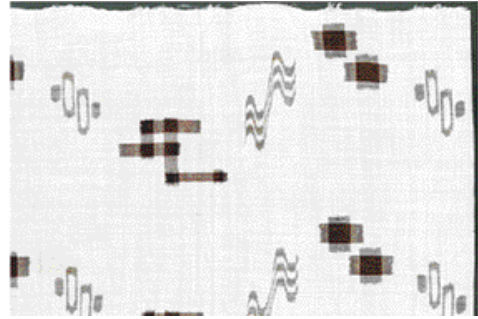
番号	031
サイズ	19.1, 19.2, 9.4, 9.2
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	22.0
その他	経糸は軽い撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。



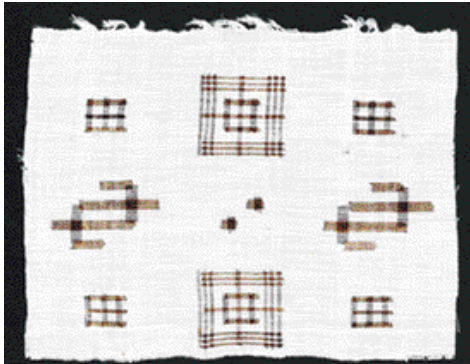
番号	032
サイズ	23.2, 23.8, 21.0, 20.7
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。



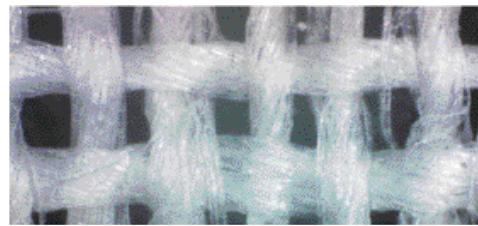
番号	033
サイズ	38.0, 38.2, 15.3, 15.4
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	22.0
その他	経糸は軽い撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。



番号	035
サイズ	45.5, 44.4, 36.6, 36.5
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は軽い撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。大きすぎて全体を表示できない。

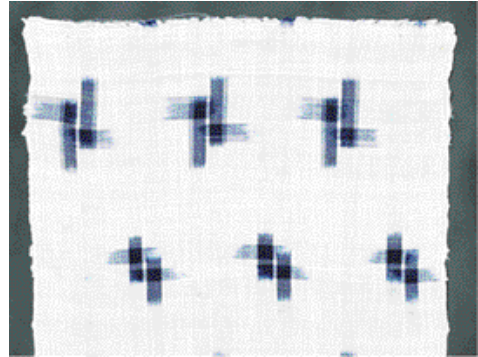
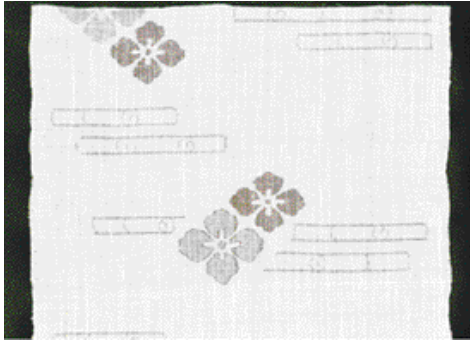


番号	034
サイズ	23.5, 23.8, 18.5, 18.2
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸は2本撚りの撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。経糸に毛羽立ちが目立つ。ゴアゴアした肌触り。

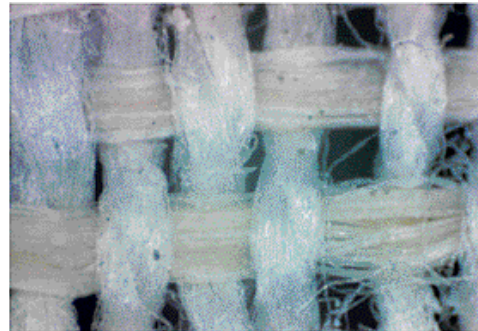
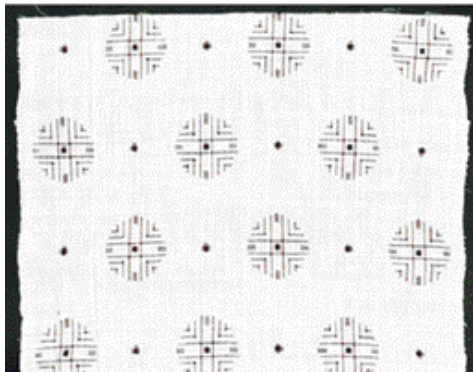
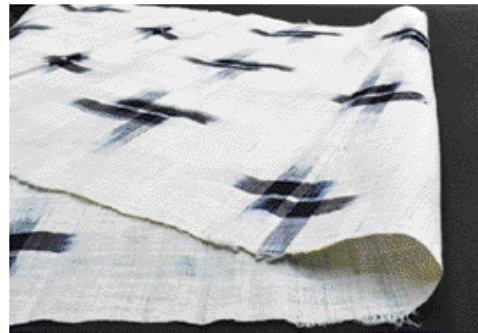


(200倍)

番号	036
サイズ	38.9, 38.6, 30.4, 30.3
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	28.3
緯糸密度	22.0
その他	経糸は軽い撚り、緯糸とも強めの撚り。光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。



番号	037
サイズ	37.5, 37.6, 41.7, 41.9
経糸繊維	苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	24.0
その他	経糸と緯糸も強めの撚り。経糸も緯糸も光沢があり、透明感のある白さがある。ゴアゴアした肌触り。大きすぎて、全体を表示できない。



(200倍)

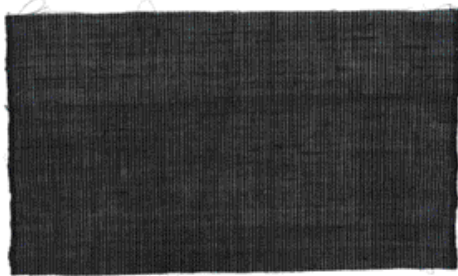
番号	038
サイズ	37.6, 37.6, 40.3, 40.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻(ラミー?)
経糸密度	26.7
緯糸密度	22.0
その他	経糸は2本撚りの撚り。緯糸は撚り無し。ゴアゴアした肌触り。大きすぎて、全体を表示できない。

番号	039
サイズ	--, 36.1, --, --, 175.6
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	25.0
緯糸密度	20.0
その他	経糸は2本撚りの撚り。緯糸は、撚り無し。苧麻の緯糸は、経年で変色している。長すぎて、全体を表示できない。 この白地の古布は、西暦1951～1956年頃に老女達が力を合わせて復元した八重山上布。経糸方向は、非常にソフトに折り畳めるが、横方向への折りたたみはできない。

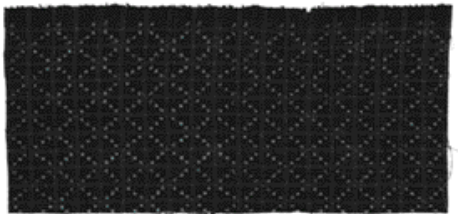
④ 紺地布

南嶋民俗資料館収蔵の白地の48枚を次に示す。紺地布と一括りにしたが、目視で多分に紺を含むため、紺地布と便宜上の分類した。

また、化学的な分析を待たなければならないが、絹糸と思われる古裂もある。



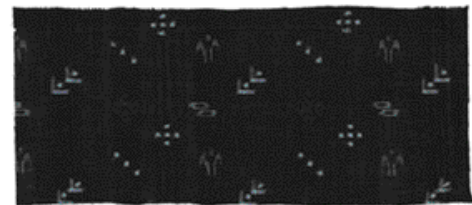
番号	2001
サイズ	36.3, 35.6, 20.7, 20.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	26.7
緯糸密度	20.0
その他	白経糸は木綿。経糸は撚り2本の撚り。緯糸は苧麻で撚り無し。ゴアゴアした肌触り。



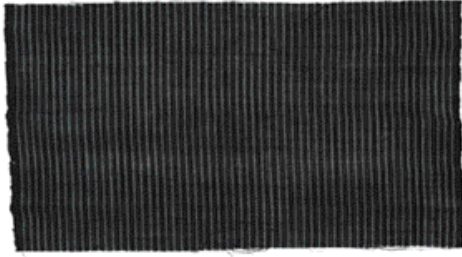
番号	2002
サイズ	32.6, 32.0, 15.0, 15.3
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	28.3
緯糸密度	22.0
その他	経糸は撚り2本の撚り、緯糸は強めの撚り。若干ゴアゴアした肌触り。



番号	2003
サイズ	27.7, 27.3, 18.9, 19.0
経糸繊維	ラミー (苧麻?)
緯糸繊維	ラミー (苧麻?)
経糸密度	25.0
緯糸密度	26.0
その他	経糸も緯糸もバインド。経糸の白糸は光沢有り。経糸は撚り無し、緯糸は非常に緩い撚りがある。経糸、緯糸とも真っ直ぐな繊維の糸であり、ラミーか苧麻と思われる。ただ、白糸は、絹にも見える。他の紺地布よりもかなりゴアゴアした肌触り。

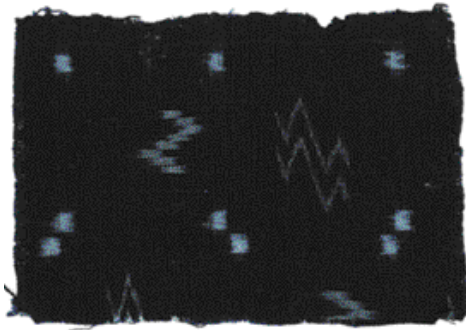
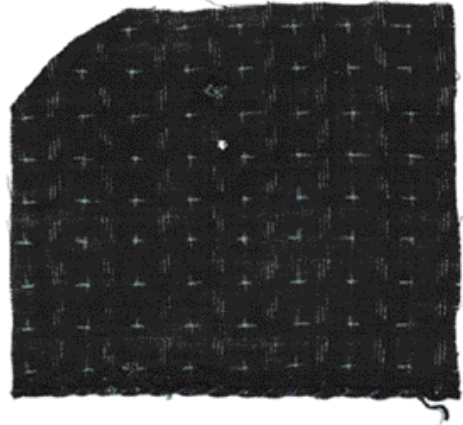


番号	2004
サイズ	31.7, 32.0, 13.9, 13.7
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	30.0
緯糸密度	24.0
その他	縦糸は撚り2本の撚り、緯糸は強めの撚り。木綿と思われるが、強い染色のため繊維同士が接着状態にあり、肌触りはゴアゴア感がある。



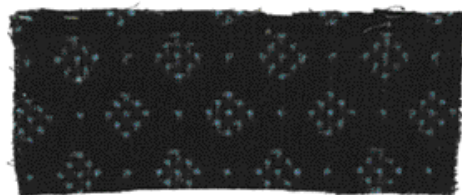
番号	2007
サイズ	13.5, 13.0, 5.6, 5.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	18.3
緯糸密度	26.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り糸。肌触りは、ソフト。厚手の布である。

番号	2005
サイズ	39.0, 38.3, 21.1, 21.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	26.7
緯糸密度	16.0
その他	経糸は撚り2本の撚り糸。緯糸に苧麻が使用されており、肌触りは、ゴアゴアしている。



番号	2008
サイズ	13.6, 13.4, 11.8, 12.1
経糸繊維	苧麻
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	25.0
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も撚り有りと無しが混在。肌触りは、ゴアゴアしている。

番号	2006
サイズ	14.0, 14.5, 9.9, 10.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	30.0
緯糸密度	16.0
その他	経糸も緯糸も強い撚りの糸。経糸が緯糸より太い。肌触りは、柔らかくソフト。



番号	2009
サイズ	17.1, 17.4, 8.2, 7.9
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	20.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。肌触りはソフト。



番号	2012
サイズ	30.6, 30.7, 16.5, 16.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻or芭蕉
経糸密度	28.3
緯糸密度	18.0
その他	経糸は撚り2本の撚り。緯糸は苧麻か、芭蕉?の黒染め。縦方向には折りたたみやすく、横方向は、折りたためないほど硬い。

番号	2010
サイズ	6.4, 7.1, 10.7, 10.9
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	16.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。赤色と桃色の2本撚りあり。赤緯糸に2本一組の部分有り。経糸、緯糸とも太さが均一ではない。肌触りは、柔らかくソフト。



番号	2013
サイズ	16.9, 16.9, 15.4, 15.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。肌触りはソフト。

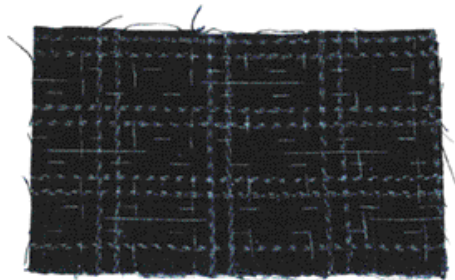
番号	2011
サイズ	34.7, 34.2, 13.9, 13.9
経糸繊維	木綿、苧麻(ラミー?)
緯糸繊維	木綿、苧麻(ラミー?)
経糸密度	25.0
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。赤色は2本一組。黒色の緯糸は撚り無しがある。白色の経糸は、苧麻(ラミー?)。



番号	2014
サイズ	18.2, 17.9, 18.8, 18.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻or芭蕉
経糸密度	28.3
緯糸密度	16.0
その他	経糸は撚り2本の撚り。緯糸は苧麻か、芭蕉?の黒染め。縦方向は折りたためるが、横方向は硬い。肌触りはゴアゴア感がある。

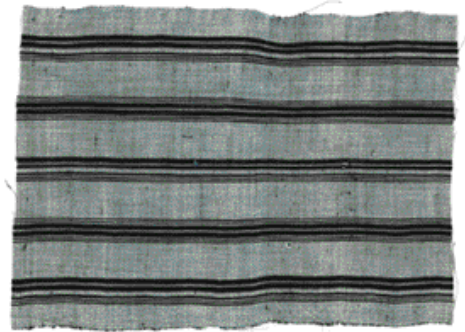


番号	2015
サイズ	17.7, 17.7, 11.0, 11.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	28.3
緯糸密度	24.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。経糸・緯糸とも太さがかなり不均一。肌触りはソフト。

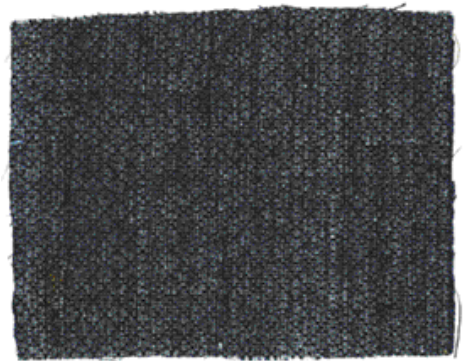


番号	2016
サイズ	13.7, 14.2, 8.5, 8.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	23.3
緯糸密度	22.0

その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。経糸・緯糸とも太さが不均一。肌触りはソフト。
-----	--



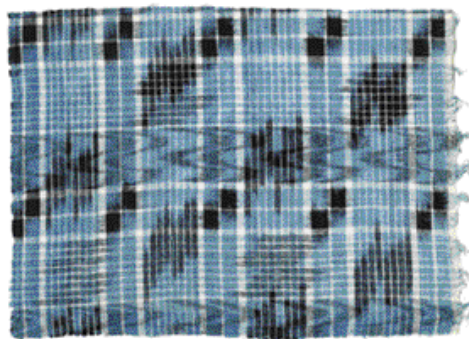
番号	2017
サイズ	22.2, 22.5, 16.5, 15.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻or芭蕉
経糸密度	30.0
緯糸密度	20.0
その他	経糸は撚り2本の撚り。緯糸は苧麻か、芭蕉?の黒染め。経方向は折りたたみやすいが、横方向は硬い。肌触りは、ゴアゴア感がある。



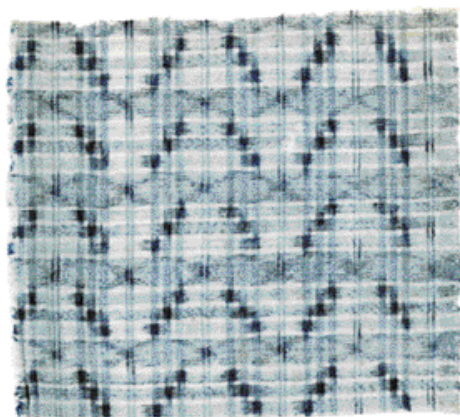
番号	2018
サイズ	17.1, 16.8, 13.2, 13.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	22.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。経糸・緯糸とも太さがかなり不均一。肌触りはソフト。



番号	2019
サイズ	35.2, 35.9, 5.1, 4.7
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	22.0
その他	経糸は2本の撚り、緯糸は強い撚り。緯糸はねじりのある繊維の糸。肌触りは、ソフトでヒンヤリしてる。



番号	2020
サイズ	24.5, 24.8, 18.2, 18.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	24.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。糸の太さはかなり不均一。肌触りはソフト。



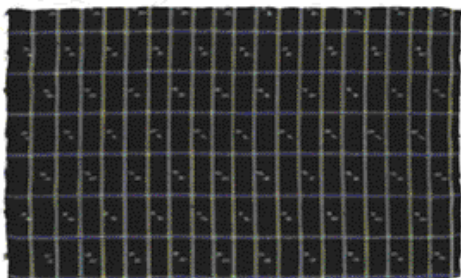
番号	2021
サイズ	13.3, 13.1, 14.8, 14.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	26.7
緯糸密度	22.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。糸の太さはかなり不均一。肌触りはソフト。



番号	2022(左縦長布のデータ)
サイズ	5.6, 5.7, 15.2, 15.7
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	30.0
緯糸密度	22.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。糸の太さは不均一。肌触りはソフト。



番号	2023
サイズ	17.1, 17.1, 8.1, 8.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	26.7
緯糸密度	22.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。糸の太さは不均一。肌触りはソフト。



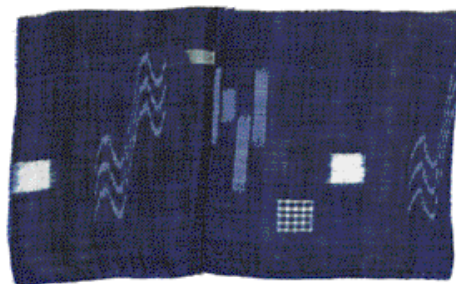
番号	2024
サイズ	34.3, 34.3, 20.4, 20.2
経糸繊維	木綿、ラミー
緯糸繊維	木綿
経糸密度	31.4
緯糸密度	22.0
その他	経糸は自然撚り、緯糸は無いか非常に緩い撚り。白の緯糸は2本撚りの撚り糸。薄い青と焦げ茶、薄紫色の糸は、麻系の繊維（ラミー?）。糸の品質が高い。肌触りはソフトで、ヒンヤリしている。化学染料か？



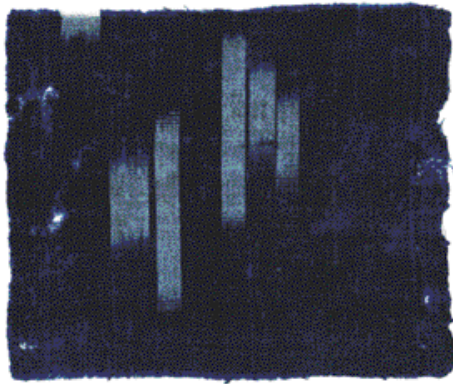
番号	2026
サイズ	35.5, 36.6, 21.2, 21.1
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も撚り2本の撚り。ねじれた繊維の糸に近い。青色の糸は細く、黒色の糸は太い。経緯が黒の糸同士なら糸間がつまるが、経緯に青色が入ると、糸間が粗となる。肌触りはソフト。



番号	2025
サイズ	17.7+17.5, 35.0, 33.6, 18.7
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	28.6
緯糸密度	24.0
その他	経糸も緯糸も撚り2本の撚り。真っ直ぐな繊維の糸に近い。上部の長さは、左下17.7cm、右上17.5cm。写真では、右上が切れている（大きすぎて全体を表示できない）。肌触りは、非常に柔らかくヒンヤリしている。上質な感じを受ける。



番号	2027
サイズ	28.5(12.7+15.8), 27.7(11.8+15.9), 17.8, 17.1
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も撚り2本の撚り。真っ直ぐな繊維の糸に近い。中央に、つなぎ合わせ。使用された糸は、経緯とも木綿と強く推定できるが、肌触りはゴアゴアしている。



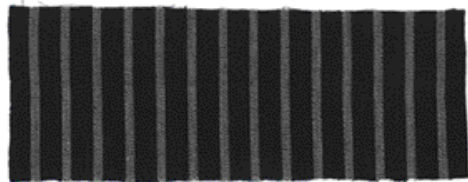
番号	2028
サイズ	15.8, 15.7, 13.2, 13.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	23.3
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。経緯の糸の太さは均一。肌触りはソフト。



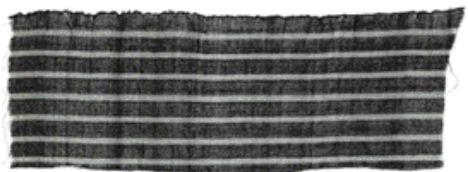
番号	2029
サイズ	20.4, 20.7, 16.5, 16.9
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。緯糸に白黒2本撚りの撚り糸がある。経緯とも糸の太さは、ほぼ均一。肌触りはソフト。上質な感じを受ける。



番号	2030
サイズ	27.0, 26.5, 9.2, 9.2
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	32.8
緯糸密度	20.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。白と青の経糸は2本撚りの撚り糸。青経糸は4mmに19本の密度。黒経糸は6mmに16本の密度。肌触りはソフト。上質な感じを受ける。



番号	2031
サイズ	34.6, 34.8, 12.7, 13.4
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	23.3
緯糸密度	16.0
その他	経糸は2本の撚り、緯糸も撚り。ねじりのある繊維の糸。肌触りはソフト。上質な感じを受ける。



番号	2032
サイズ	31.5, 30.0, 10.5, 10.8
経糸繊維	木綿、苧麻
緯糸繊維	苧麻orラミー
経糸密度	26.7
緯糸密度	22.0

その他	経緯の黒糸は繊維が接着された一本太い糸となっており、柔軟性がない。また、自然な撚りがある。白の経糸は真っ直ぐな繊維の糸で、2本で1本の撚り糸。白の経糸は木綿と思われるが、毛羽立ちがかなり少ないため、木綿と即断できない。化学分析が必要。白経糸は3mmに8本の密度。黒経糸は6mmに16本の密度。黒の経緯糸は、白の経糸と同じ材質かも知れない。経糸、緯糸とも絹の可能性も否定できない。生地の肌触りは、かなりゴアゴアしている。
-----	---

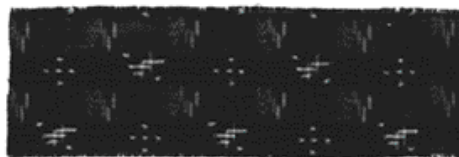


番号	2033
サイズ	18.6, 19.2, 14.0, 14.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	37.5
緯糸密度	18.0
その他	経糸はすべて2本の撚りの撚り糸、緯糸は強い撚り。ねじりのある繊維の糸。白黒経糸は白と黒の2本撚りの撚り糸。青い経糸は1mmに5本の密度。肌触りはソフト。

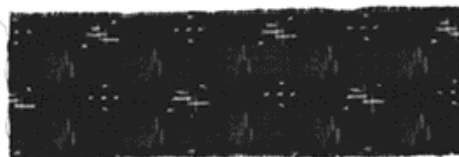


番号	2034
サイズ	25.9, 26.5, 9.8, 9.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿

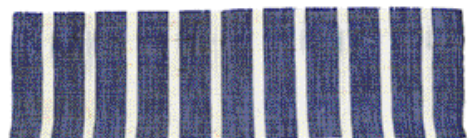
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸は2本の撚りの撚り糸。白黒の経糸と緯糸は白糸と黒糸による2本撚りの撚り糸。肌触りはソフト。



番号	2035
サイズ	27.8, 27.9, 9.2, 9.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	31.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸は撚り。緯糸は2本撚りの撚り糸。経糸・緯糸とも真っ直ぐな繊維の糸。糸密度がかなり高い。肌触りはソフト。非常に上品な感じを受ける。



番号	2036
サイズ	27.7, 27.8, 9.0, 9.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	31.7
緯糸密度	20.0
その他	経糸は撚り。緯糸は2本撚りの撚り糸。経糸・緯糸とも真っ直ぐな繊維の糸。糸密度がかなり高い。肌触りはソフト。非常に上品な感じを受ける。



番号	2037
サイズ	33.7, 34.2, 9.8, 9.7
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	25.8
緯糸密度	18.0
その他	経糸は2本撚りの撚り糸。緯糸は苧麻。青の経糸は6mmに15本の密度。白の経糸は6mmに16本の密度。青の経糸は白の経糸に比べて、若干細い。苧麻の緯糸は、太さにかなりばらつきがある。肌触りは、非常にゴアゴアしている。

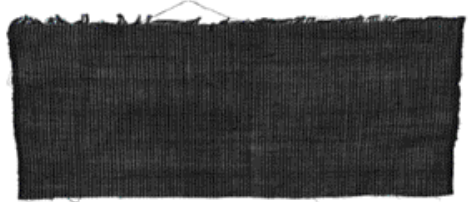


番号	2038
サイズ	35.4, 35.5, 12.8, 13.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.8
緯糸密度	16.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。黒の経糸は6mmに16本の密度。青の経糸は6mmに15本の密度。肌触りはソフト。

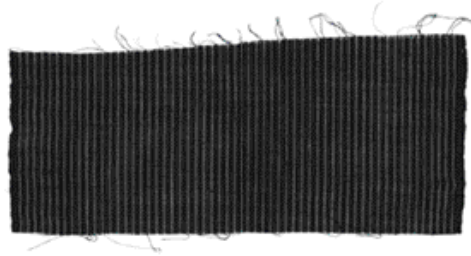


番号	2039
サイズ	36.1, 36.9, 19.1, 18.7
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸は2本撚りの撚り糸。白黒経糸は黒2本撚りに白2本撚りをよ

	り合わせて1本の経糸とする特異なタイプ。ねじりのある繊維の糸。肌触りはソフト。
--	---



番号	2040
サイズ	37.2, 35.5, 15.0, 14.6
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	26.7
緯糸密度	18.0
その他	経糸は白糸も黒糸も2本撚りの撚り糸。緯糸は繊維が接着されたような糸で苧麻、あるいは芭蕉も考えられる。糸間は離れている。ゴアゴアした肌触り。



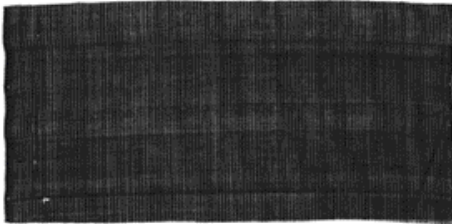
番号	2041
サイズ	38.7, 38.1, 15.4, 16.9
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	苧麻
経糸密度	25.8
緯糸密度	16.0
その他	経糸は白糸も黒糸も2本撚りの撚り糸。緯糸は繊維が接着されたような糸で苧麻、あるいは芭蕉も考えられる。糸間は離れている。ゴアゴアした肌触り。



番号	2042
サイズ	23.4, 23.5, 16.2, 16.8
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	16.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。経緯糸とも太さにむらがある。肌触りはソフト。



番号	2044
サイズ	35.2, 35.4, 25.5, 25.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	28.3
緯糸密度	24.0
その他	経糸も緯糸も撚り2本の撚り糸。木綿特有のねじりのある繊維の糸。肌触りはソフト。上品な感じの布。

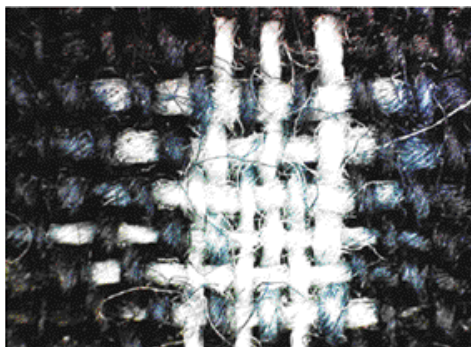
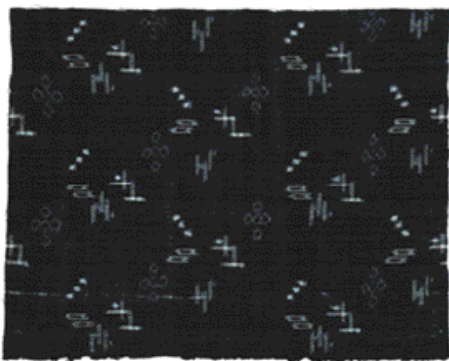


番号	2043
サイズ	36.3, 36.4, 17.5, 18.0
経糸繊維	苧麻 (ラミー?) or 絹
緯糸繊維	苧麻 (ラミー?) or 絹
経糸密度	28.3
緯糸密度	28.0
その他	経糸も緯糸も繊維が接着されたような糸。手触りから苧麻かラミーと思われるが、繊維一本一本がなめらかで艶があるように見えるため、絹糸の可能性も捨てきれない。糸と糸の間は離れている。ゴアゴアした肌触り。



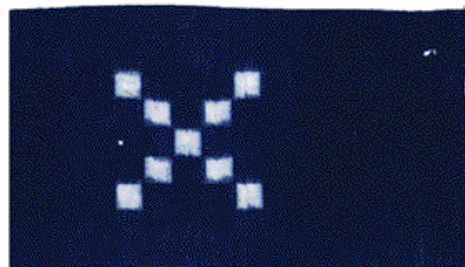
(200倍)

番号	2045
サイズ	31.1, 29.9, 26.0, 26.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	30.0
緯糸密度	22.0
その他	経糸も緯糸も弱い撚り。白経糸は2本撚りの撚り。白の経糸を除いて、黒の経糸も緯糸も繊維が接着されたような糸。手触りから苧麻かラミーと思われるが、繊維一本一本が細いため木綿としたが、なめらかで艶があり絹を思わせる(2046, 2048番と比較されたい)。糸と糸の間は離れている。かなりゴアゴアした肌触り。

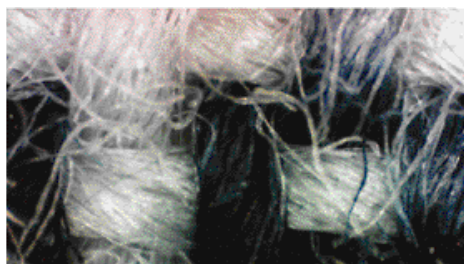
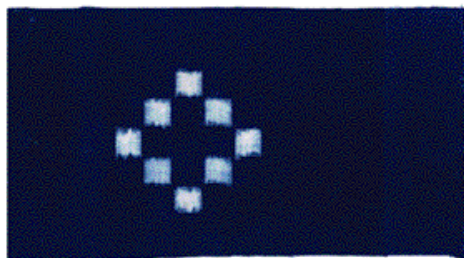


(60倍)

番号	2046
サイズ	34.6, 35.1, 27.7, 27.4
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	23.3
緯糸密度	16.0
その他	経糸も緯糸も撚り2本の撚り。ねじりのある繊維の糸。薄手で、肌触りはソフト。上品な感じの布。



番号	2047
サイズ	44.5, 45.0, 20.5, 20.5
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	25.0
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。少し厚手。肌触りはソフト。上品な感じの布。大きすぎて、全体を表示できない。



(200倍)

番号	2048
サイズ	44.4, 44.2, 19.8, 20.0
経糸繊維	木綿
緯糸繊維	木綿
経糸密度	23.3
緯糸密度	18.0
その他	経糸も緯糸も強い撚り。ねじりのある繊維の糸。少し厚手。肌触りはソフト。上品な感じの布。大きすぎて、全体を表示できない。

[2] 考察・課題

今回の南嶋民俗資料館収蔵の八重山地方の古布裂のサイズならびに顕微鏡での目視による繊維の調査結果を第3章に示した。

文献[1]での調査研究では、54枚の古裂であったが、今回はそれに44枚を加えて総計98枚の古裂の調査を行った。これにより、統計的な信頼性が高まった。

例えば、統計的には、文献[1]と同様に、白地に撚りの掛かっていない緯糸が用いられ、紺地に撚りの掛かった糸が用いられていることが明らかとなった。紺地には木綿糸の使用率が高いことも、今回の顕微鏡による調査で明らかにした。

その一方で、前回、文献[1]において八重山上布と呼ばれる古布裂に絹糸が用いられているのではないかとの仮説を立てたが、今回は目視による質的なデータの調査であるため、基本的にラミーであろうとの立場を取ることにした。

例えば、白地の027番の古裂では、200倍の顕微鏡写真を見ると非常に光沢があることがわかる。そのため絹の可能性も排除できないと思われるものの使用されている糸を苧麻(ラミー?)とした。苧麻でないことは、039の復元布の顕微鏡写真と見比べると一目瞭然であるが、慎重を期した。

これら白地に見られる疑問の解明については、今後の調査研究においての化学的なアプローチが必須であり、早急な研究課題となった。ここで付け加えて言うならば、白地の多くは027番と同じ繊維質である。仮定の話になるが、化学的なアプローチでそれらが絹となれば、従来の八重山上布の定説に一石を投じることになると思われる。

今回の調査研究で得られた成果と、南嶋民俗資料館の98枚の古裂の全体像を公開することで、今後の八重山の染織産業の新しい商品開発やブランドとして利用でき

ば、この上なく幸いである(文献[14-15])。

今回は、顕微鏡写真を中心に化学的な検証を含めて論文を認める予定である。

謝辞

本論文を作成するに当たって、八重山地方の大切な民俗資料を保管管理している南嶋民俗資料館長の崎原毅氏に心から感謝をしたい。崎原氏の御厚意がなければ、長期間にわたる八重山古布裂の調査はできなかった。

今回、著者が本論文で示したのは目視による調査結果にすぎない、その意味で明らかにできたのはまだまだ僅かであると思っている。今後の研究を通して崎原毅館長の願いに応えたい。

論文受付日：2012/06/22

論文採録日：2012/08/03

参考文献

- [1] 「八重山上布の顕微鏡撮影による考察～南嶋民俗資料館の古布～」, 又吉光邦, 沖縄国際大学産業情報論集, 第8巻第1・2号合併号, pp.11-33, 2012.3.
- [2] 『八重山写真帖 -20世紀のわだち- [上巻]』, 石垣市総務部市史編集室, 石垣市, 2001.3.
- [3] 『石垣市史叢書 11 御手形写抜書 乾隆三十六年(一七七)～道光十年(一八三〇)』, 石垣市, 石垣市総務部市史編集室, 2001(第二刷).
- [4] 『石垣市史 各論編 民俗 上』, 石垣市, 石垣市史編集委員会, 1994年.
- [5] 『石垣市史叢書 3 富川親方八重山島諸村公事帳』, 石垣市, 石垣市総務部市史編集室, 1992.
- [6] 『石垣市史叢書 8 参遺状抜書 (上

- 卷)』、石垣市、石垣市総務部市史編集室、1998(第二刷)。
- [7] 『石垣市史叢書 13 八重山島年来記』、石垣市、石垣市総務部市史編集室、2000(第二刷)。
- [8] 『石垣市史 資料編 近代4 新聞集成1』、石垣市役所、1983.3.
- [9] 「明治四十三年 沖縄縣勸業年報」、沖縄縣知事官房、1912.3.
- [10] 『石垣市史叢書 7 翁長親方八重山島規模帳』、石垣市、石垣市総務部市史編集室、1994.3.
- [11] 「染織資料三題」,上江洲敏夫,史料編集室紀要第14号,pp.121-136,1989.3.
- [12] 「「紅型」という名前」,久貝典子,沖縄学研究所紀要『沖縄学』第九号,2006.
- [13] 「沖縄の伝統的染織と古代中国の染織との比較研究・調査—組織図を中心に—」,地域経済の発展と産業の情報化に関する研究(第3報),沖縄国際大学産業総合研究所,2008.1.
- [14] 「観光産業資源としての伝統産業(染織物)および情報化への調査」,観光の国際化に関する地域間比較研究,沖縄国際大学産業総合研究所,2009.3.
- [15] 『沖縄復帰40周年記念 紅型 琉球王朝のいろとかたち』,丹羽理恵子・井垣万里子・池田芙美編集,サントリー美術館,2012.4.